

## 患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を行っております。対象となる患者さんのデータを用いて行いますが、個人のお名前や個人を特定できる情報が公表されることは一切ありません。

研究課題名	大腿骨転子部骨折（大転子、小転子、転子部不顕性骨折および不全骨折）の保存的治療例の検討
研究責任者 （共同研究者）	森永 伊昭
研究目的と意義	<p>保存的治療の適応がある大腿骨転子部骨折（大転子、小転子、転子部不顕性骨折および不全骨折）の特徴と転帰を明らかにすることが目的です。</p> <p>大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン改訂第2版（日本整形外科学会診療ガイドライン委員会編集）は大腿骨転子部骨折について「転位のない大転子骨折のみの骨折では保存的治療を推奨する」、「転位のない大腿骨転子部骨折は保存的治療も可能であるが、骨接合術を推奨する。」「Occult fracture（不顕性骨折）の治療は症例に応じていずれの治療法を選択しても良い。」と解説し、大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン2021改訂第3版は大腿骨転子部 Occult fracture について「症状が強い場合には早期手術を考慮しても良い」と解説しています。大転子骨折は大腿骨転子部不顕性骨折 Occult fracture を合併することが多いです。不顕性骨折 Occult fracture を保存的に治療するか手術するかについての対応は施設によって異なります。当院では、大腿骨転子部骨折のうち大転子・小転子の単独骨折、不顕性骨折 Occult fracture、転位のない軽微な不全骨折には保存的治療を選択しています。保存的治療を行なった大腿骨転子部骨折（大転子、小転子、転子部不顕性骨折 Occult fracture、不全骨折）の特徴、転帰を検討します。</p>
調査対象となる方 （該当期間）	2008年11月1日から2023年10月31日までに当院、整形外科・リハビリテーション科に入院した大腿骨転子部骨折患者
研究方法 （使用する情報）	<p>研究方法：観察研究(後ろ向きコホート研究)</p> <p>研究対象者について、下記の臨床情報を診療録より取得します。</p> <p>性、年齢、受傷前歩行ADL、受傷前居住（自宅か否か）、身長、体重、Body Mass Index (BMI)、同居家族数、既往歴・併存疾患、受傷機転、同時併発疾患・外傷、単純X写真・CT・MRI 検査での骨折画像所見・骨折型や椎体骨折数、骨密度、治療法、発症から入院までの日数、入院から手術までの日数、入院から回復期リハビリテーション病棟転入までの日数、手術から回復期リハビリテーション病棟転入までの日数、回復期リハビリテーション病棟転入から転出・退院までの日数、総入院日数、急性期病棟（主に当院整形外科病棟）及び回復期リハビリテーション病棟入院（転入）時・退院（転出）時のHDS-Rと身体計測値（身長、体重、上腕周径、上腕三頭筋皮下脂肪厚、下腿周径、握力）、日常生活動作（Activities of Daily Living、ADL）、採血検査データ、経口摂食量・エネルギー摂取量、嚥下障害の有無、摂食状況レベル（FILS）、代替栄養（静脈栄養、経管栄養）併用の有無、入院中に生じた急性合併症、栄養状態関連指標（MNA-SF、GNRI、BMI、CONUT score など）、生死、退院先（自宅か否か）、骨折前的大腿骨近位部骨折歴や骨折後の新たな大腿骨近位部骨折発症、など</p>

研究期間	2023年3月10日（倫理委員会承認日）～2025年12月31日
個人情報の取り扱い	個人情報は厳正に管理し、利用する情報から氏名や住所などの患者さんを直接特定できる個人情報（イニシャル、生年月日、当院 ID など）は利用せず、番号を付与し、対応表を作成します。対応表は研究責任者がインターネット環境から遮断された院内コンピューターにパスワードをかけて保管し、自施設外に個人を直ちに判別できる情報の持ち出しは行いません。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	この研究に関して新たに患者さんにいただくことや負担は特にありません。本研究への参加を辞退される場合は、いつでもご遠慮なく研究責任者までご連絡ください。参加を辞退されても患者さんが診療の上で不利な扱いをうけることはありません。 お問い合わせ先：津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科 研究責任者：森永 伊昭 電話番号：0172-55-7717
備考	特記なし

ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。